

平成24年度 海外派遣教員を励ます会

平成24年2月25日（土）に上記の会が、岡山アークホテル1Fレストラン「ラ・ペーシュ」で開かれました。岡山駅の近くで、便利が良く、貸しきりでも良心的な料金のため、本会の行事としておなじみの会場でした。

参加者は42人で、今回派遣される9人の内8人が参加されました。それでは、以下に会の様子をお知らせいたします。



多田賢一校長は、シニア派遣として北京日本人学校に校長として派遣されます。先生は今回が3回目の派遣になります。前回の派遣は、蘇州日本人学校の初代校長としてのものでした。シニア派遣の制度ができて、退職した教師が現地でまたすごくがんばってきたため、毎年採用が増えているそうです。今回は20人が派遣され、応募者は千人もいたそうです。今回、北京日本人学校の校長として派遣が決まり、責任の重大さを痛感するとともに、岡山県国際理解教育研究会のバックアップに感謝していますとのことでした。現地では、安心安全なよりよい学校づくりをめざしたいとお話されました。



中川健二校長は、倉敷市立琴浦中学校からコロンビアのボゴタ日本人学校に校長として派遣されます。年度途中の派遣により（3学期は引継ぎにより現任校は離れます）いろいろと迷惑をかけました。また帰国後は、しっかりと恩返しをしたいとのことでした。前回の派遣は、デトロイト補習校でしたが、日本を遠く離れてがんばっている子どもたちの姿を見て、またお手伝いをしたいと考えていました。今回、このような機会をいただき感謝しています。コロンビアは南米にあり、日本からはアメリカのアトランタ経由で20時間かかります。首都のボゴタは、アンデス山脈の2600mと高地にあるため、赤道に近いのに日本の早春のような気候だそうです。麻薬戦争があったとか、サッカーでオウンゴールした選手が殺されたとか、いろいろと治安がよくないという心配を聞きましたが、現在の大統領になって、中南米校長会が開けるなど、改善してきており、これからの発展が期待されています。とはいうものの、銃をもった警備員が買い物でも5m後をついて来るそうで、安心安全な学校環境を作っていきたいとお話しされました。

また、奥様からは、普通には絶対に行かないような国に派遣されるのも何かの縁なので、しっかり勉強し現地で交流していきたいとのことでした。



岡本紀彦先生は、倉敷市立西中学校からジャカルタ日本人学校に派遣されます。すでに中学校3年生の担任と連絡があり、進路指導が大丈夫かなあと心配そうでしたが、社会科担当なので、教材の開発や国際理解教育の推進等、意欲的に話されました。インドネシア語は、世界で2番目に簡単な言語といわれているので、それならあんなに思われたそうです。住まいは、マンションですが、メイドさんや運転手さんを雇う必要があり、家族でない人と一緒に暮らす不安もあるということでした。

奥様からは、養護教諭として働いていましたが、3年間お休みをいただいたので、家族のためにがんばりたいとの話がありました。健康保険が家族全員分では100万円を超えるから、どうしようかと悩んでおられました。小さいお子様がおられますし、赤痢は風邪のようなものという現地ですから、是非入った方がいいですよと先輩方からアドバイスを受けていました。



坂江至先生は、真庭市立八束小学校から深圳日本人学校に派遣されます。八束小学校は、まだ運動場に雪が積もっているのに、深圳日本人学校では、もうクーラーをつけていると、現地からのメールで驚いたそうです。八束小学校は、新校舎ができたばかりですが、深圳日本人学校も新校舎ができたということで、今まで経験したこととで早速貢献出来るかなと考えておられます。深圳日本人学校は、児童生徒数200人くらいで、毎年30人くらいずつ増加しているということでした。

次に、奥様からは、中国語をCDで勉強中で、ありがたい経験をさせていただき、感謝していますとお話がありました。



岡本雅弘先生は、倉敷市立味野小学校から上海日本人学校虹橋校に派遣されます。味野小学校は、全校児童が333人ですが、上海日本人学校は1600人もいて、味野小学校が1学年という驚きがありました。今、中国語を電子辞典で学習しています。本会の鳥居校長を始めたくさんの先輩に海外に行ってみるといいよと言われ、挑戦しましたが、今回の派遣を自分を大きくする機会にしたいと思いますと述べられました。

次に、奥様からは、今お腹に赤ちゃんができて7月が予定日になっているので、出産後遅れて行くことになりますが、年末までには呼び寄せ派遣となりたいと話されました。子育てについては不安だけど、いい経験なのでしっかり家族をサポートしていきたいとのことでした。



中原真智子先生は、総社市立総社西中学校から蘇州日本人学校に派遣されます。蘇州日本人学校は、できて7年目の学校で、本会の多田校長が初代校長でした。多田校長は、校歌も作っておられます。蘇州は、日本では奈良のような歴史のある都市だそうです。今年の東日本大震災で、やりたいことはがんばろうと、派遣を希望しチャンスを与えられて張り切っておられました。



瀬溝準子先生は、倉敷市立第一福田小学校からクアラルンプール日本人学校に派遣されます。派遣を希望した動機は、中学校の恩師から日本人学校のことを聞いたからだそうです。マレーシアは、住みやすいところだと知り、現地校との交流など現地に溶け込んでがんばりたいとのことでした。マレーシアでは、自分で車の運転をしないといけないから不安だそうです。高速道路の下り方は少し難しいけれど、左側通行は日本と同じだから大丈夫と、マレーシアの先輩鳥居校長に励まされていました。



山下友之先生は、倉敷市立郷内小学校からローマ日本人学校に派遣されます。山下先生は、少年自然の家で働いた経験があります。同じ地球に生きる人の中で、生き方や考え方の違いを学びたいと話されました。

次に、奥様からは、この派遣で市役所を退職することになりました。また、家も建てたばかりで、リスクが大きかったおですが、いい経験なのでしっかりイタリア料理をマスターしてきたいとのことでした。

今回の壮行会では、会員の先生方から貴重なお話がたくさんありました。最後にいくつかを紹介します。

都築勉会長

私は平成3年に、シンガポール日本人学校に赴任しました。ちょうど教員生活の折り返し点でした。自分のことを知らない人たちと新しく仕事をするには、心地よかったです。アジアに派遣される先生方は、戦争のことが大きなポイントになると思います。一緒に働いていた視聴覚担当の30才の現地スタッフが、おじいさんは日本人に殺されたと話しました。その時、戦争は過去のものとは違う、ついこの間の話なんだと感じたのです。私は、時間の概念が派遣で変わりました。皆さんも、年齢や行き先は違いますが、人生や教職にとって意味のあるものにしてください。元気でがんばって来て下さい。



藤井昭平顧問

乾杯のあいさつをします。私は、岡山県の派遣が始まる時に、県の学事課長をしていました。皆さんは、岡山の教育のためには、素晴らしい財産となることでしょう。今年は派遣が始まって40周年を迎えます。帰国教師も毎年平均5人としても、200人を超えます。みなさんが教育の現場でリーダーとして活躍しているわけです。今回派遣される先生方も、不安と希望は抱き合わせと思いますが、岡山の代表として、また日本の外交官として、自信と誇りをもって活躍してください。



森崎岩之助顧問

私は、30年ほど前に岡山県の課長として派遣の先生の書類を担当していました。退職して15年ですが、できるだけこの会に参加させてもらっています。これからの世界に羽ばたく子どもの育成には、教師も世界的な視野をもつことが必要です。教師が子どもたちに、実際の体験を語ることは大事です。現地の人たちとの交流を深め、子どもたちにその体験を自分の言葉で話してください。きっと子どもたちは、大きな感動をし、学習意欲をもったり夢をもったりすることでしょう。現地では大変なことも多いでしょうが、健康に留意して、いい研修をしてきて下さい。



鳥居恭治副会長

閉会のあいさつをします。実は、私は赴任して最初にホテルで何日か過ごしていた時に、行ったらいけない地区をうろろしていました。夜そんなところを歩いたら危険だと聞いたのは、2週間後でした。知らないことは恐ろしいと思いました。現地の人と仲良くということと安全は別ですから、気を付けてください。皆さんは岡山県の代表として赴任していきます。まず、ここにおられるような先輩のおかげで日本人学校に派遣されるということに感謝し、あの先生は良かったと言われるようにがんばってきてください。現地では、病気も心配でしょうし、家族にたよることが増え、絆が深まります。3年後の歓迎会では、楽しい話を聞かせてくれることを期待しています。

